

SCS セルフコンプレッションスクリュー用手術器械
(1.5/2.0 テーパードスクリュー用)

【警告】

本手術器械は未滅菌のため、[保守・点検に係る事項] に定める方法で、使用前に必ず滅菌を行い、使用後は必ず洗浄・滅菌を行い、清潔に保管すること。

【禁忌・禁止】

〔併用医療機器〕

SCS セルフコンプレッションスクリュー (医療機器承認番号: 22200BZX00621000) による骨接合手術以外に使用しないこと。
(「相互作用」の項参照)

【形状・構造及び原理等】

1. 組成

ステンレススチール, チタン合金, PF, PEEK, PPS

2. 形状・構造・原理

本品は指節間関節固定等に用いる SCS セルフコンプレッションスクリュー (1.5/2.0 テーパードスクリュー) (医療機器承認番号: 22200BZX00621000) 専用の手動式手術用器械セットであり、骨への適切な穴あけ、インプラントのサイズ測定、固定及び抜去等を行います。

尚、本手術器械の製品名、カタログ番号については、包装表示ラベル又は製品本体に記載されていますのでご確認ください。

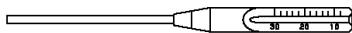
- ☐ Cat. No. HS21-0200

製品名: 1.0 ガイドピン用ガイド (S)



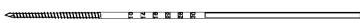
- ☐ Cat. No. HS21-0300

製品名: 0.8/1.0 ガイドピンデプスゲージ (2.5D)



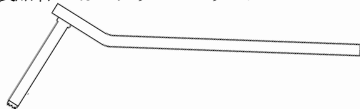
- ☐ Cat. No. HS21-8000

製品名: 1.5/2.0 スクリュー用タップ



- ☐ Cat. No. HS21-8100

製品名: 2.0 スクリュースリーブ



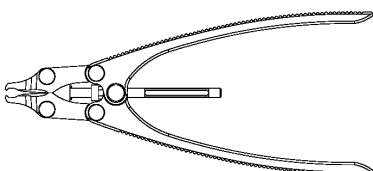
- ☐ Cat. No. HS21-8200

製品名: SCS 1.5/2.0 スクリュー把持器



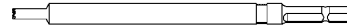
- ☐ Cat. No. HS21-8300

製品名: SCS 1.5/2.0 スクリューカッター



- ☐ Cat. No. HS21-8500

製品名: 1.5/2.0 スクリュー用ハローリーマー



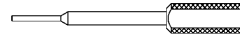
- ☐ Cat. No. HS21-8600

製品名: スクリュースムーザー



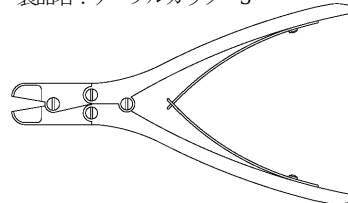
- ☐ Cat. No. H21-8700

製品名: スクリュープッシャー



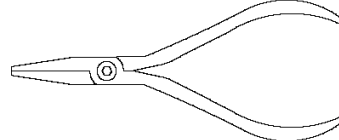
- ☐ Cat. No. HS26-1520

製品名: ケーブルカッター-S



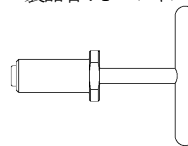
- ☐ Cat. No. HS26-1700

製品名: 抜去用ケーブルペンチ



- ☐ Cat. No. HS04-2901

製品名: T ハンドル (S)



- ☐ Cat. No. HS04-3500

製品名: パワーピンアダプタ (S)



【使用目的又は効果】

指節間関節固定等の骨接合手術に用いる SCS セルフコンプレッションスクリュー (1.5/2.0 テーパードスクリュー) (医療機器承認番号: 22200BZX00621000) 専用の手動式手術用器械セットである。本品は再使用可能である。

【使用方法等】

1. 使用前

本手術器械は未滅菌のため、手術前に予め [保守・点検に係る事項] に示す滅菌条件にて滅菌を施して下さい。

2. 使用時 (使用例)

2-1 インプラント

- 1) 関節部の修復後、1.0 ガイドピンを1.0 ガイドピン用ガイド (S) を用いてイメージ下で適位深さまで刺入し、スクリー下孔を作製します。(図1)

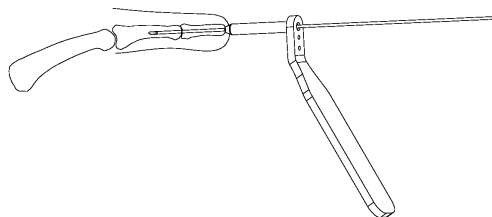
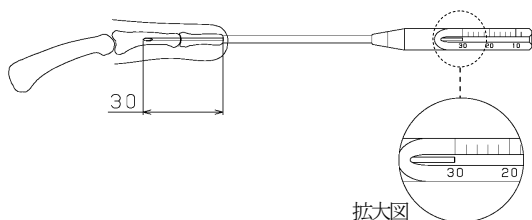


図1

- 2) 1.0 ガイドピンを介して、0.8/1.0 ガイドピンデプスゲージ (2.5D) にて刺入深さを計測し、スクリー長を決定します。(図2)
この深さは刺入部位からガイドピン先端までの実測値です。



* 図2

- 3) タップと把持器のカット面を合わせた状態でタップを装着し、把持器のつまみを反時計方向に回しロックします。
オーバータッピングによりスクリー固定力が損われるので、イメージ下で確認しながら選択したスクリー深さまで慎重にタッピングを行います。(図3)
2.0 スクリュースリーブを使用すると、タッピング深さ目盛を把持器先端に合わせることで、選択したスクリー長さまでタッピングできます。(図4)

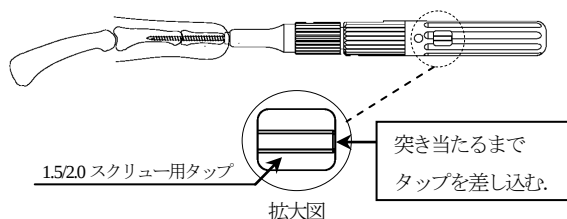
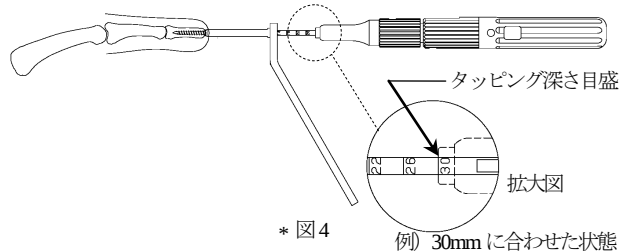


図3



* 図4

例) 30mm に合わせた状態

- 4) 3) と同様に、1.5/2.0 テーパードスクリーのカット面を合わせ把持器に装着し、スクリー切断部が骨内に埋没しないよう挿入します。(図5)
2.0 スクリュースリーブを使用する場合は、1.5/2.0 テーパードスクリー把持部のラインマーキングを把持器先端に合わせて装着して下さい。把持器先端がスクリースリーブ端面に到達すると、スクリー切断部が骨面から突出した状態になります。(図6)

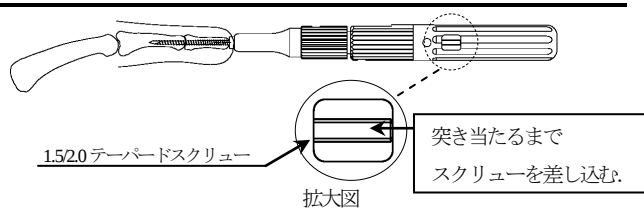
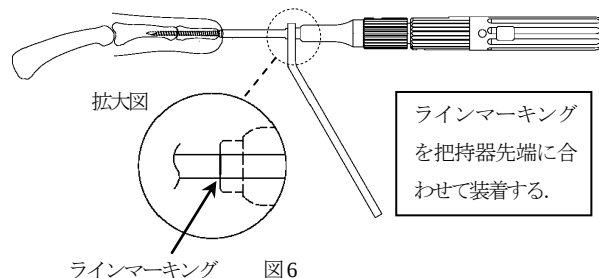


図5



ラインマーキング 図6

- 5) 1.5/2.0 テーパードスクリー挿入時にスクリーの切断部が破断し、スクリー後端軸が把持器内部に残ってしまった場合、把持器後端からスクリーブプッシャーを挿入し、スクリー後端を除去します。(図7)
つまみを緩めた状態で行って下さい。

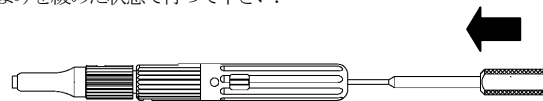


図7

- 6) スクリュー切断部が骨内に埋没していないことを確認し、1.5/2.0 スクリューカッターを矢印の向きに挿入します。スクリー後端がスクリーカッターのガイド部ラインと一致していることを確認し、スクリーを切断します。(図8)
スクリーが斜めに挿入された場合は、スクリーカッターをスクリー溝部に沿わせるように斜めから当てがい、スクリーを切断します。(図9)
ケーブルカッターSでも切断できます。

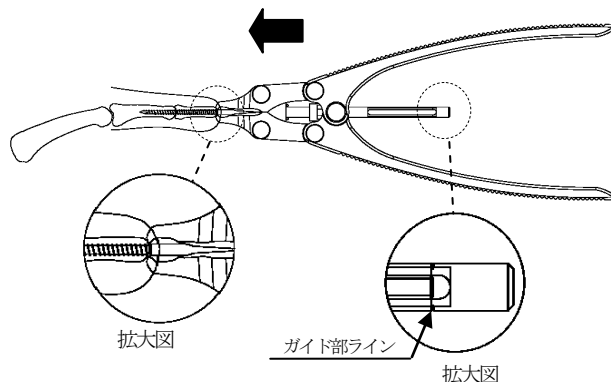


図8

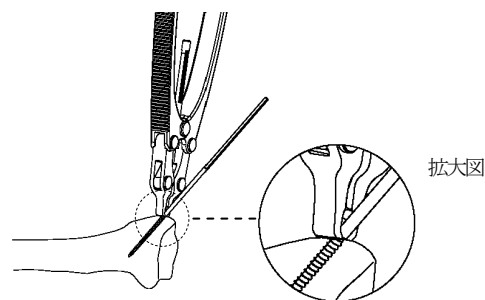


図9

- 7) スクリュースモウザーの先端ヤスリ部をスクリュー切断面に当てがい、固定軸を手の掌で押さえながらヤスリ回転ダイヤルを回し、切断面のバリ取りを行います（固定軸は回しません）。（図 10）



図 10

2-2. 抜去

- 1) 骨質が固い場合は、1.5/2.0 スクリュー用ハローリーマーの後端に T ハンドル (S) を取り付け、左回転でスクリューの周りの骨を削ります。（図 11）

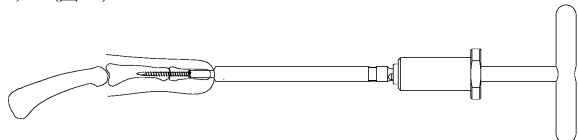


図 11

- 2) 1.5/2.0 スクリュー用抜去器の後端に T ハンドル (S) を取り付け、左回転でスクリューの抽出を行います。パワーツールを用いる場合は、必要に応じパワーピンアダプタ (S) を介して低速かつ左回転でスクリューの抽出を行います。スクリュー抽出時の喰い付き状況により、以降のスクリュー抽出が不確実になる場合があります。その場合は、新たなスクリュー抜去器をご使用下さい。抽出したスクリューは、抜去用ケーブルペンチでつかみ、1.5/2.0 スクリュー用抜去器から取り外します。（図 12）

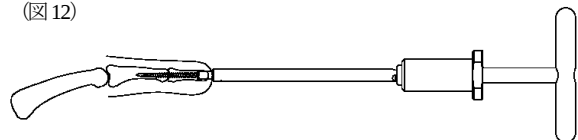


図 12

3. 使用後

使用後は、水ですすぎを完全に行い、[保守・点検に係る事項] に定める滅菌方法にて滅菌を行います。

4. 使用方法等に関連する使用上の注意

- 使用前に必要な手術器械が揃っているか確認して下さい。
- ガイドピン、タップ等の刃物類は破損を及ぼすような過剰な負荷をかけないよう適切に使用して下さい。
- 損傷、磨耗、曲がり等が見受けられるガイドピン及びタップ等は、絶対に再使用しないで下さい。
- ガイドピンが意図しない方向に進んで周囲の組織内に進入しないように、イメージインテンシファイヤー (X 線透視) を用いて、ガイドピンの位置を頻繁に確認して下さい。
- 中空内に骨屑片が集積しないよう、中空構造を持つ器具はこれを術中に除去しながら使用して下さい。
- スクリューを挿入する前に、必ずタッピングを行って下さい。[骨質の硬い患者の場合、タッピングを行わないと、スクリュー挿入中に予期せぬ折損が生じる恐れがあります。]
- スクリューの挿入抵抗が大きい場合、無理に挿入せずタップで再タッピングをした後、再度挿入して下さい。
- テーパードスクリューに曲げ応力が効かないよう慎重に挿入して下さい。[傾けた状態で挿入により、予期せぬ折損が生じる恐れがあります。]
- 骨片間圧迫固定を確実にするため、スクリューの中央部付近で骨折線をまたいで固定して下さい。
- スクリューの溝部を切断する前に、スクリューが正確に設置されていることを確認して下さい。
- スクリューの溝部をカッターで切断する際は、スクリューの把持部が飛散しないよう、適切に保護しながら切断して下さい。
- 1.5/2.0 スクリュー用ハローリーマーはスクリューに対して軸直に使用して下さい。挿入後、傾けて操作すると 1.5/2.0 スクリュー用ハローリーマーの先端部が破損する恐れがあります。
- 挿入／抜去の際は、専用の手術器具を正しく接続し、イメージ下で慎重に行ってください。
- 抜去する際は、製品／抜去器具に無理な力が加わらないよう慎重に使用して下さい。
[過度の負荷により、製品／抜去器具が破損する恐れがあります。]

- 15) 抜去する際、スクリューに対してスクリュー用抜去器を強く押し付けると、骨質等の状態によってはスクリューが前進する恐れがあるので、必要に応じイメージ下で確認しながら慎重に操作して下さい。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 刃の摩耗やキズ、曲がり等が激しい刃物類（ガイドピン、タップ、リーマー）は、破損する恐れがあるので、絶対に使用しないで下さい。
- 先端の変形や摩耗が激しい回転工具（ドライバー類）は破損する恐れがあるので、絶対に使用しないで下さい。
- 使用後は隙間部分、内管及び中空部分や複雑な構造を有する部分に血塊等が残らないよう速やかに洗浄後滅菌して下さい。（「保守・点検に係る事項」参照）
[嵌合部等にある血塊や異物を除去しきれない恐れがあります。]

2. 相互作用（他の医療機器等との併用に関すること）

- 1) 併用禁忌（併用しないこと）

医療機器の名称等	臨床症状・処置方法	機序・危険因子
SCS セルフコンプレッションスクリュー（医療機器承認番号：22200BZX00621000）以外の骨折部固定内副子材料	インプラントの緩み、破損の危険性が高まる恐れがある。	インプラントが適切に埋入できないため固定力等が不足する。
当製造業者製以外の手術用機械器具	手術用機械器具の不具合による危険性が高まる恐れがある。	手術用機械器具の操作が正しく機能しない。

3. 不具合・有害事象

本製品の使用において、患者の状態、骨折部の形態及び骨癒合の状態などにより次のような不具合・有害事象がまれに現れることがあるので、異常が認められた場合は直ちに適切な処置を施して下さい。

- 重大な不具合
 - 製品の破損、破損片の体内遺残
- 重大な有害事象
 - 偽関節、変形骨癒合、再骨折（術中／術後）
 - インプラントの脱転
 - 感染症、血栓症
 - 骨の短縮、骨壊死、骨密度の低下
 - 金属アレルギー、異物アレルギー
 - 手術における神経的損傷、穿孔時発熱障害
- その他の不具合
 - 挿入／抜去時の製品／器具の破損
 - 術後のインプラントの緩み
- その他の有害事象
 - 痛みや不快感、異物感
 - 骨癒合不全
 - 血行再生障害
 - 挿入／抜去時における破損器具の体内遺残

4. 高齢者への適用

一般的に高齢者は骨量・骨質が十分でないことが多いので、本製品の使用は慎重に行い、術後の経過にも十分注意して下さい。

【保管方法及び有効期間等】

- 1) 保管方法

直射日光及び高温多湿を避け保管して下さい。

【保守・点検に係る事項】

【使用者による保守点検事項】

1. 使用前

- 1) 本手術器械は未滅菌のため、手術前に予め次に示す条件にて滅菌を施して下さい。

・滅菌方法及び滅菌条件（オートクレーブ滅菌）

熱 源	水蒸気	
処 理 圧 力	118 kPa	196 kPa
処 理 温 度	121 ℃	132 ℃
処 理 時 間	20 分以上	5～10 分

-
- 2) 製品を使用する前に摩耗、キズ、割れ、有害バリ、錆、接合の不良等がないか、外観検査を実施して下さい。

2. 使用後

- 1) 使用後は、速やかに洗浄を行い、血塊等を除去し、使用前の欄に示す「滅菌方法及び滅菌条件」で滅菌を行い保管して下さい。
- 2) 洗浄中又は洗浄後の製品を放置すると錆び等が発生する恐れがありますのでむやみに放置しないで下さい。
- 3) 洗浄剤は、医療用中性洗剤等の専用の洗剤を用い、適正な濃度で使用して下さい。（洗剤の使用説明を参照して下さい。）
- 4) 強アルカリ／強酸性洗剤・消毒剤は器具を腐食させる恐れがあるので、使用を避けて下さい。やむを得ず使用する際は、製品の状態を確認し腐食等が発生しないよう洗浄して下さい。
- 5) 洗浄の際、製品の表面等にキズがつかないようブラシ、スポンジ等を使用し、金属製たわし、クレンザー（磨き粉）等の使用は避けて下さい。
- 6) 隙間部分や中空穴を有する製品はブラシ等で隙間部分や中空穴部分を入念に洗浄し異物を除去し、洗浄後の製品に異物がないことを十分確認して下さい。
- 7) 可動部を有するものは可動部分を操作しながら洗浄して下さい。
- 8) 分解可能なもの或いは組み合わせて使用するものは最小単位まで分解し洗浄を行って下さい。
- 9) ブラシ等で血塊等を除去できない場合は隙間部分等を血液溶解剤又は蛋白分解酵素剤等を用いて洗浄後、超音波洗浄機を用いて洗浄し、滅菌して下さい。特に隙間部分は異物が残りやすいので、異物がないことを十分確認して下さい。
- 10) 血液溶解剤又は蛋白分解酵素剤等の薬剤を使用する場合は取扱説明書を参照の上使用して下さい。
- 11) 超音波洗浄機を使用する場合は、取扱説明書を参照の上使用し、製品に異物等がなくなるまで洗浄して下さい。
- 12) 超音波洗浄機を使用する際は、ドリル等の刃物が接触し、キズ等が発生しないよう注意して洗浄して下さい。
- 13) 合成樹脂が使用されている製品に高圧蒸気滅菌を行う場合、合成樹脂部分が滅菌トレー又は滅菌用金網容器等の金属部分に直接触れないようにして下さい。
- 14) 洗浄、滅菌後可動部分を有する製品がスムーズに可動しない場合は、必要に応じ水溶性潤滑剤または流動パラフィンを塗布して下さい。水溶性潤滑剤又は流動パラフィンを使用する場合は取扱説明書を参照の上使用して下さい。
- 15) 洗浄後は、水ですすぎを完全に行い、腐食防止のために、直ちに乾燥させて下さい。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元

株式会社 ホムズ技研
〒391-0213 長野県茅野市豊平 4734-352
電話番号 0266-76-5881

製造元

株式会社 ホムズ技研